



退学へ至る経路と要因について

広島工業大学 教学IRセンター
川原 耕治

休学(留年) ・退学者について

◆これまで

- 文科省：平成26年から大学中退の実態調査を開始
大学の質保証 → 中退率抑制？
- 読売新聞：「大学の實力」（2008～2019）
 - ✓ 入試別中退率の調査・報道
 - ✓ Webで簡単に中退率を検索・比較可能

◆現状

- コロナ禍の期間を除くと、日本の大学では毎年2.5%ずつ学生が辞める
- 大学の学生数は年によって変動するが、約280万人として約7万人
- コロナ禍（2020年）は退学者が約0.5%減少
 - ✓ 各大学の支援活動（授業料減免、悩み相談）
- 2018年当時、4年間退学率
 - ✓ 国立2.9%, 公立4.2%, 私立8.0%

発表内容

◆目的

➢退学者の傾向を把握し、退学防止へ繋げる。（1年次で利用可能なデータ）

◆使用ソフト

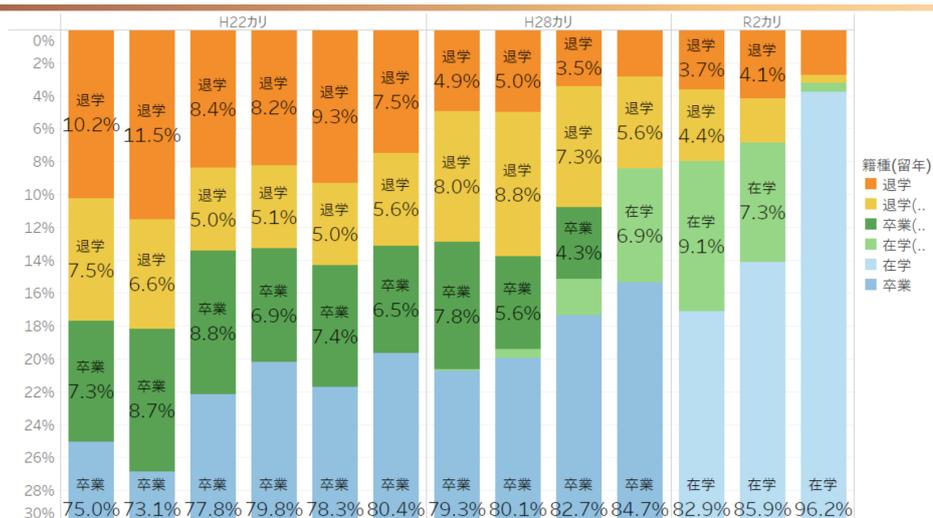
➢Tableau

◆分析（可視化）

- ①全体傾向（2010年～）
- ②1年前期GPAと学籍変更（通常，留年，退学）の関連
- ③新入生アンケート結果と学籍変更の関連
- ④退学へ至る経路と退学理由のサンキー図による可視化
- ⑤Progテスト結果と学籍変更の関連
- ⑥1年前期GPAと修得単位数による退学リスクの可視化

3

全体傾向



H22カリキュラム

➢進級制限がない

H28, R2カリキュラム

➢2年→3年, 3年→4年で進級制限有

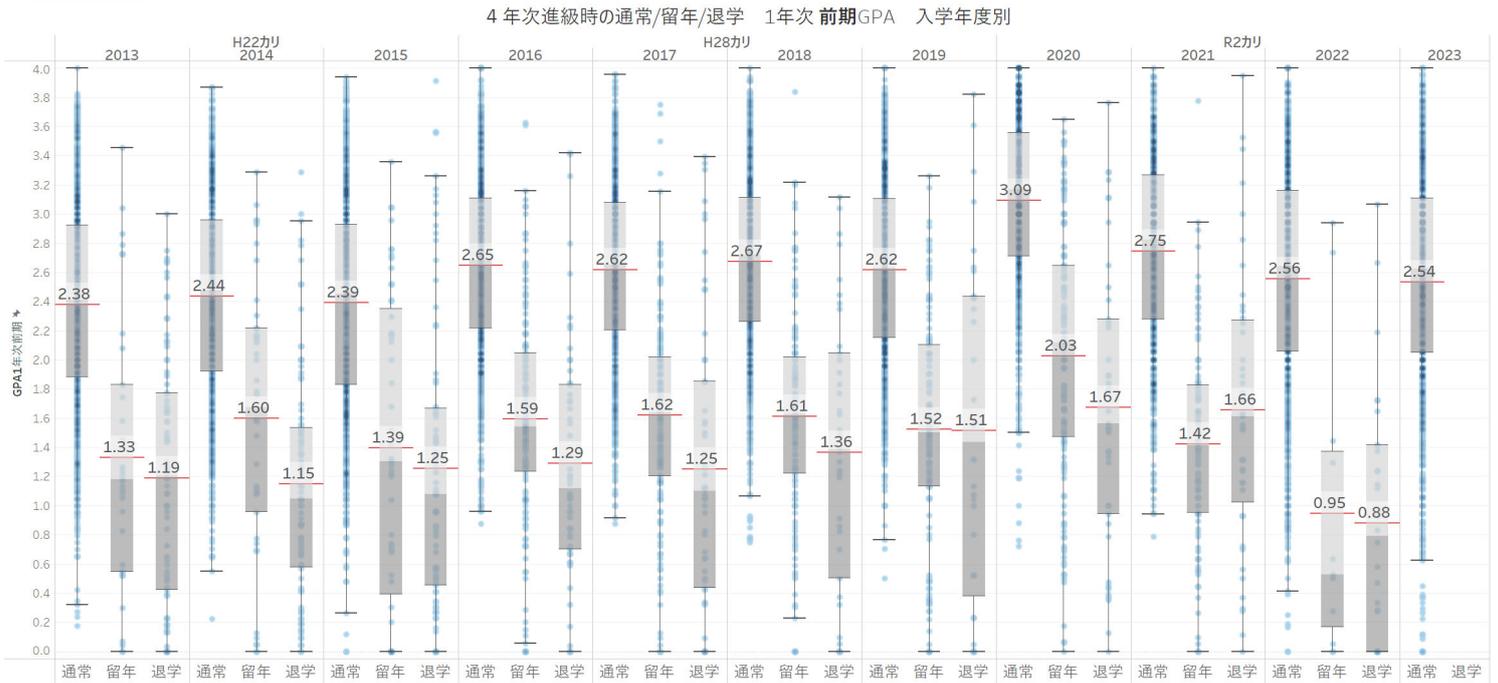
2018, 2019年入学者の退学率が高い

→コロナ禍の影響？

	2010	2011	H22カリ				H28カリ				R2カリ		
	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
退学	220 17.7%	205 18.2%	144 13.4%	152 13.3%	160 14.3%	157 13.1%	149 12.9%	154 13.8%	122 10.8%	100 8.4%	90 8.0%	73 6.9%	35 3.2%
卒業	1,022 82.3%	923 81.8%	930 86.6%	992 86.7%	958 85.7%	1,040 86.9%	1,007 87.0%	958 85.7%	983 87.0%	1,006 84.7%			
在学							1 0.1%	6 0.5%	25 2.2%	82 6.9%	1,033 92.0%	989 93.1%	1,054 96.8%

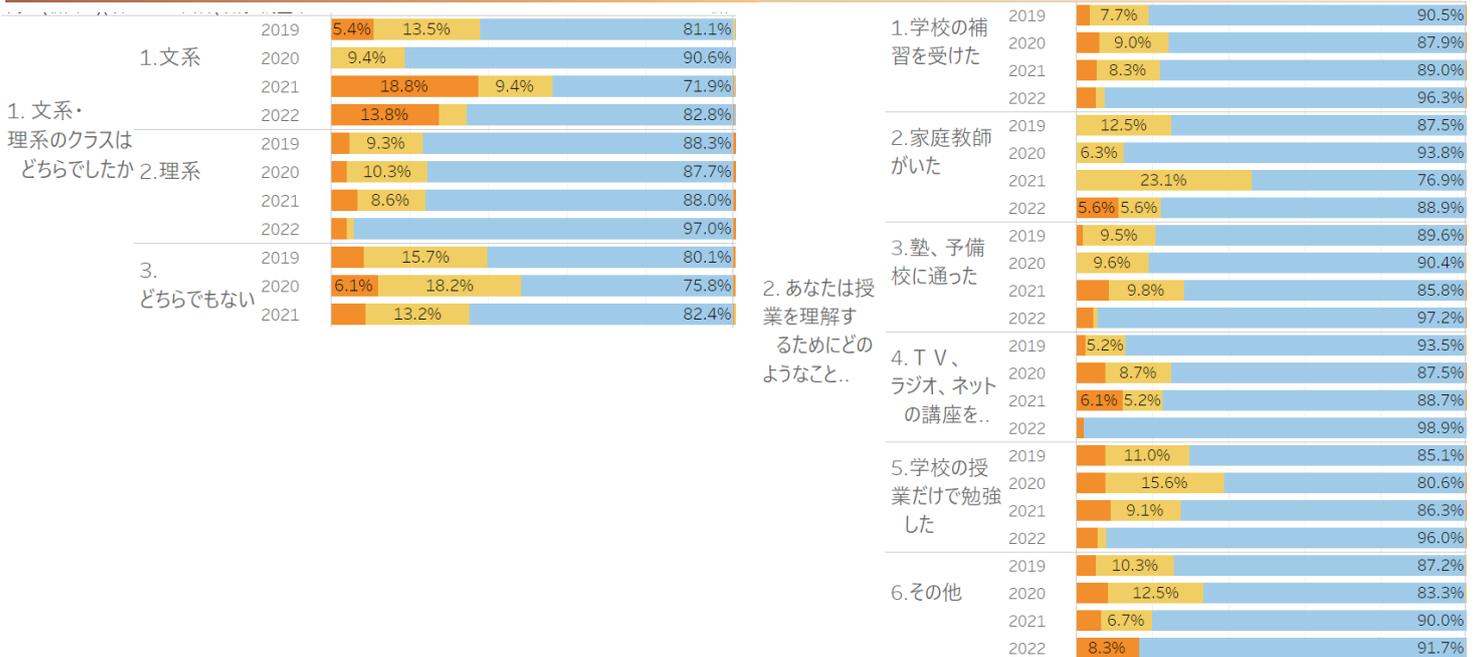
4

籍別に見た1年前期GPA（4年進級時点）



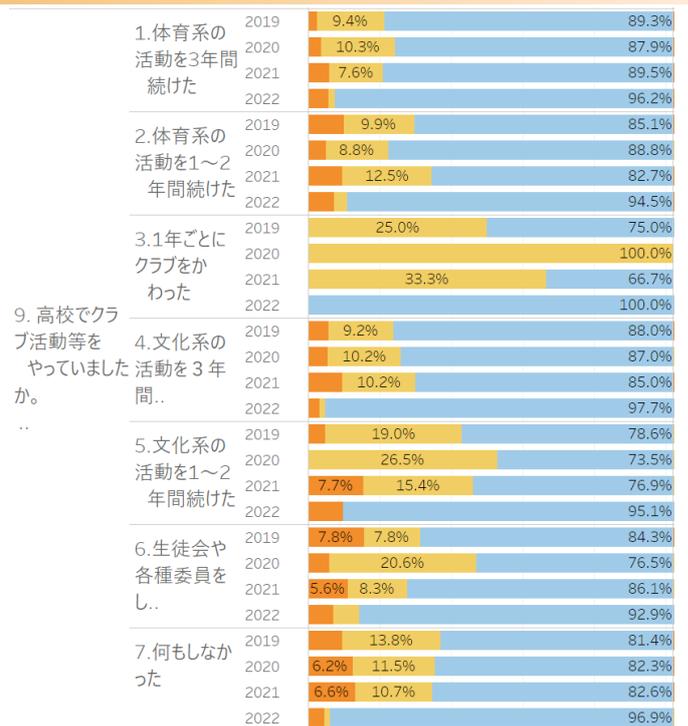
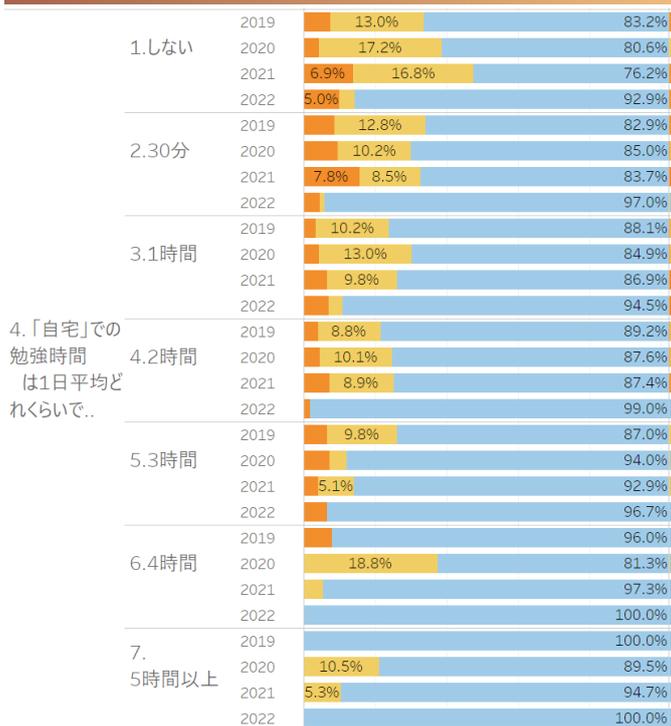
5

新入生アンケート 1（退学・留年）



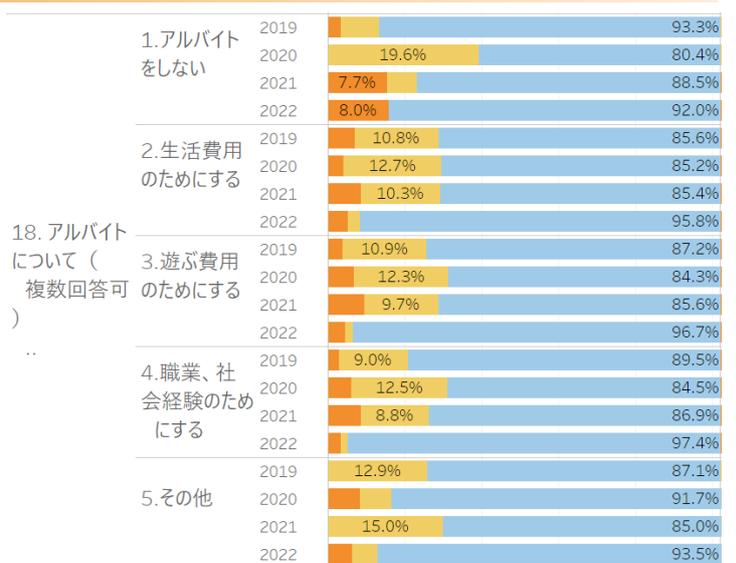
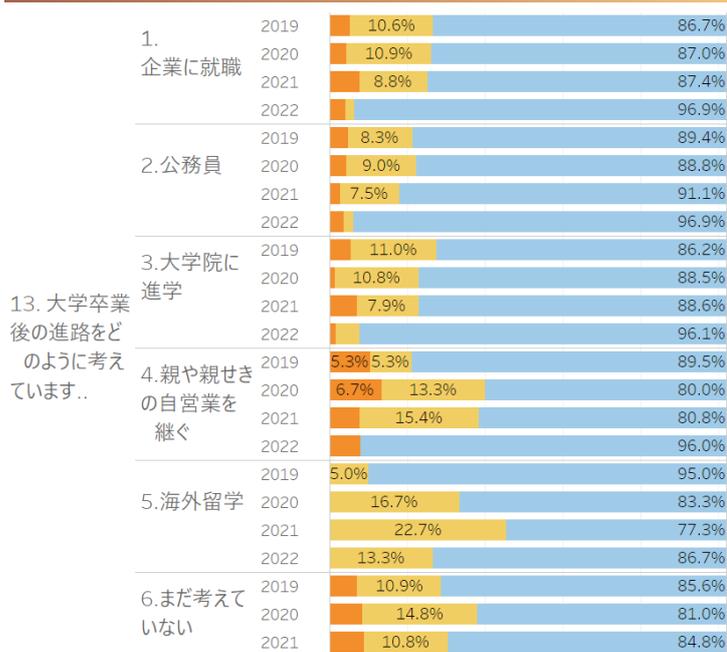
6

新入生アンケート 2 (退学・留年)



7

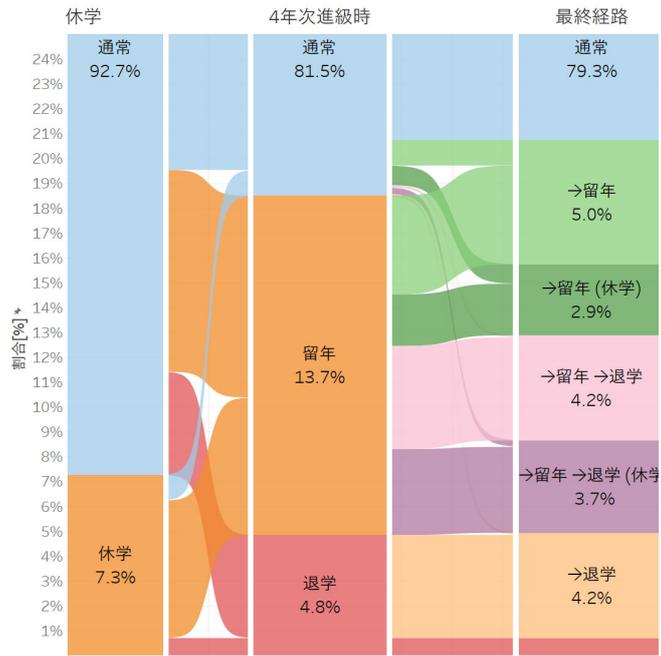
新入生アンケート 3 (退学・留年)



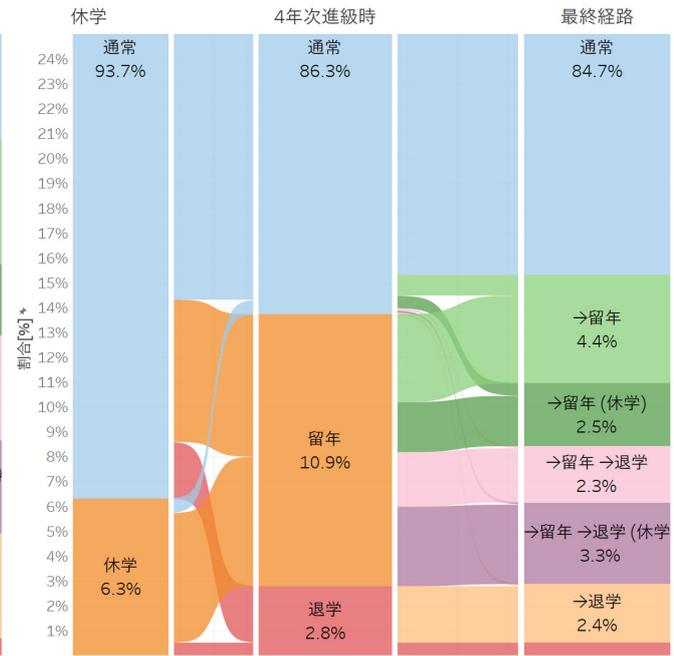
8

学籍変更1 (2016, 2019)

2016年入学者

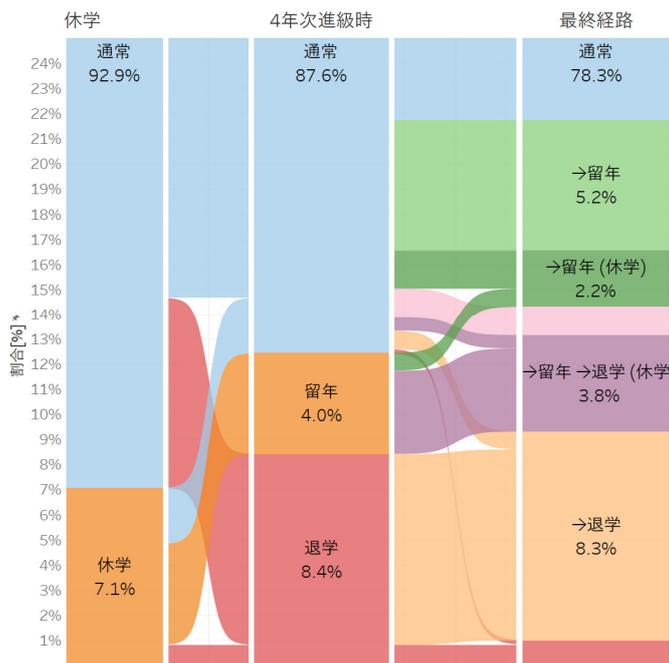


2019年入学者

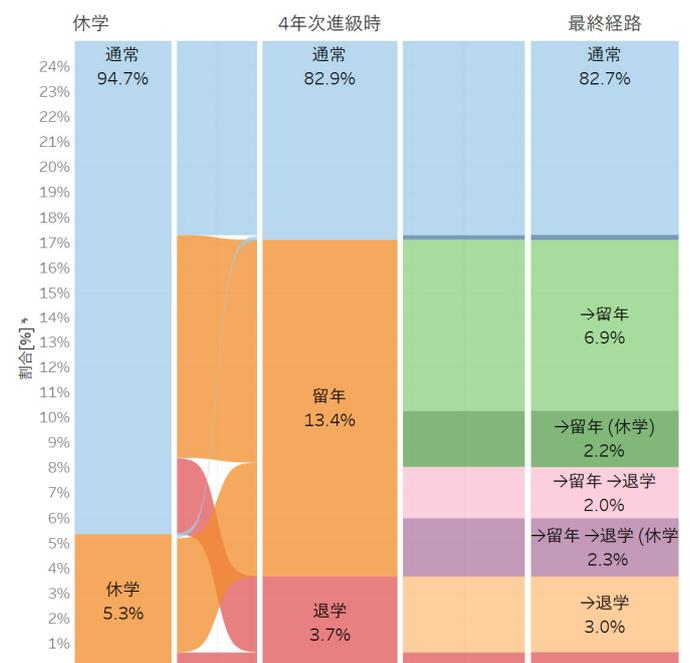


学籍変更2 (2014, 2020)

2014年入学者

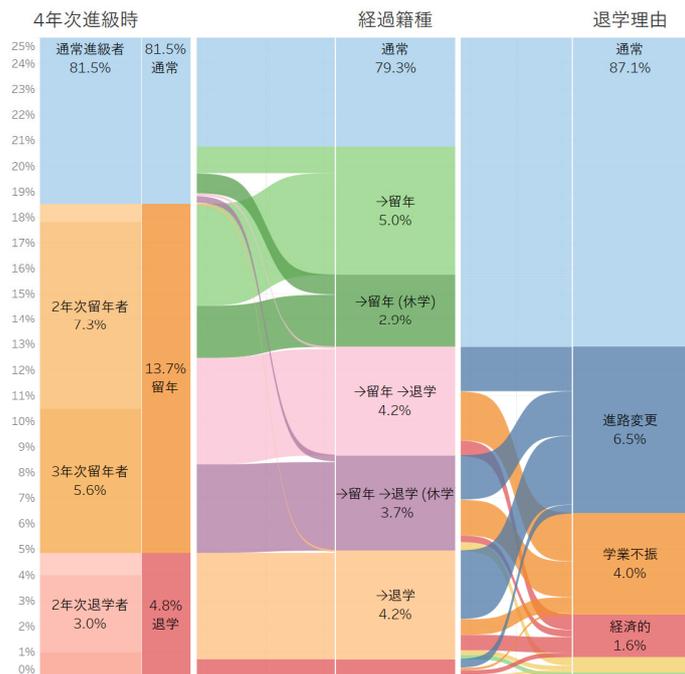


2020年入学者

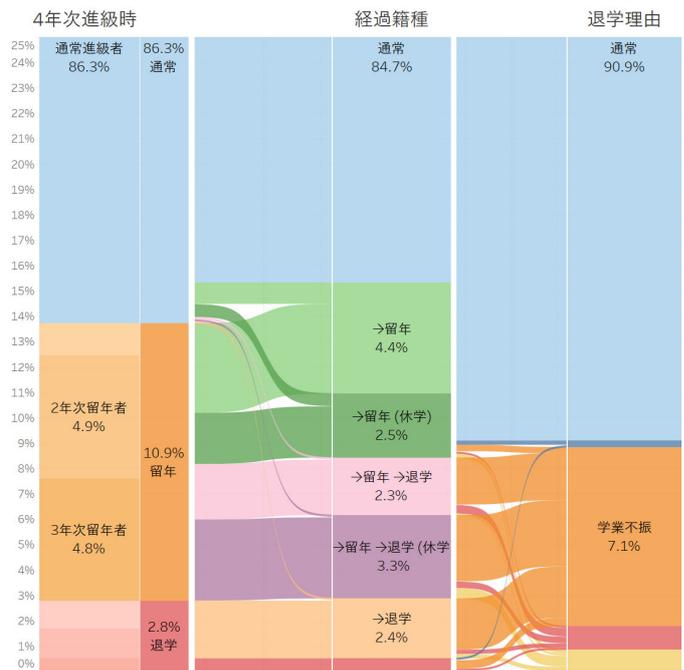


退学理由 1 (2016, 2019)

2016年入学者

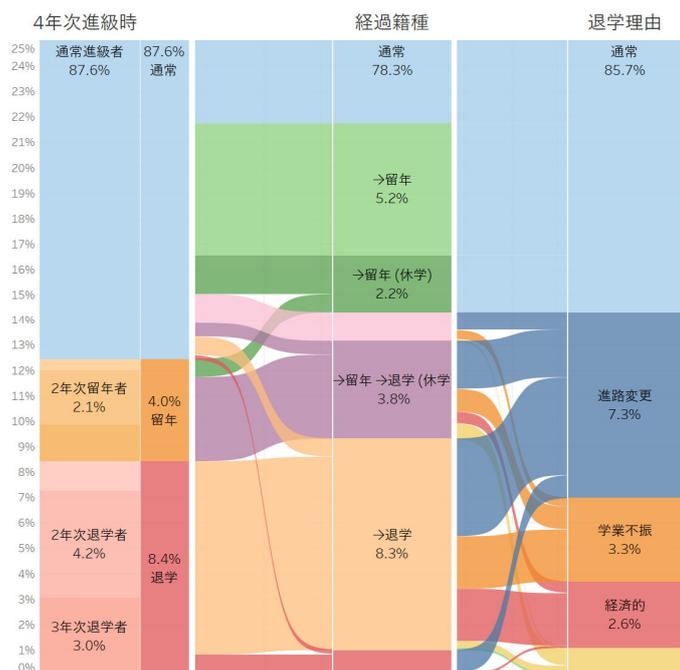


2019年入学者

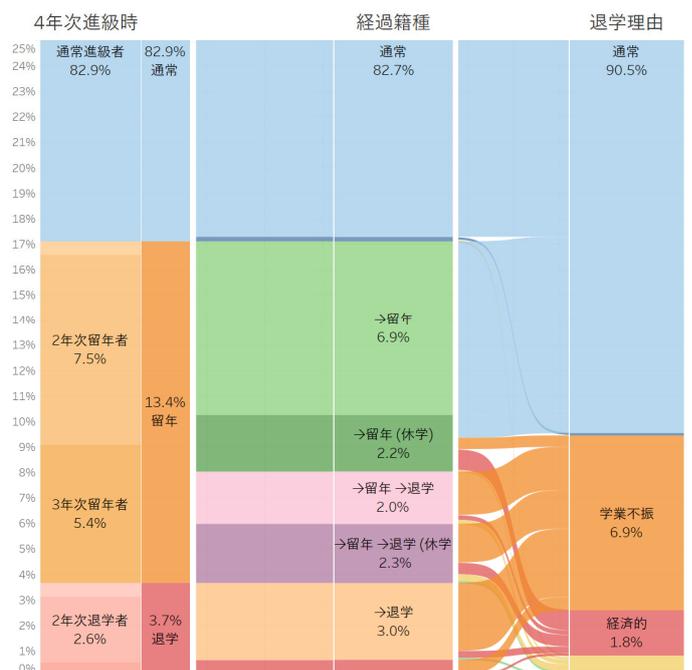


退学理由 2 (2016, 2019)

2014年入学者



2020年入学者



PROGテストについて

➤河合塾とリアセックが共同開発したジェネリックスキルが測定可能なテスト

➤測定項目

✓リテラシー（L）

新しい問題やこれまで経験のない問題に対して知識を活用して課題を解決する力を、情報収集力や情報分析力など6つに分類したうち、4つの能力で測定

◎問題解決力（情報収集力，情報分析力，課題発見力，構想力）

◎言語処理能力，非言語処理能力

✓コンピテンシー（C）

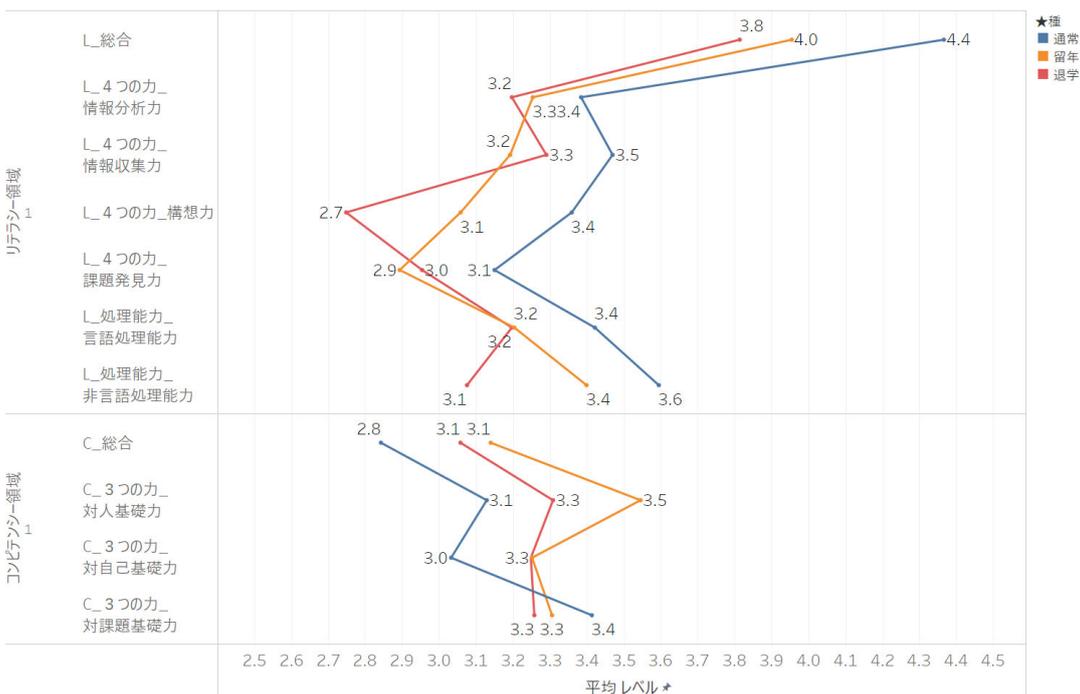
周囲の状況に上手に対応するために身につけた意志決定の特性や行動スタイルを確認

◎対人基礎力，対課題基礎力，對自己基礎力

⇒本学では，1年生と3年生で実施する

Prog結果（2020～2022：1年生）

PROG



コンピテンシーとは

- 親和力…円満な人間関係を築く（親しみやすさ・気配り・対人興味・多様性理解など）
- 協働力…協力的に仕事を進める（役割理解、連携行動・相互支援・指導の動機づけなど）
- 統率力…場を読み、目的に向かって組織を動かす（意見を主張する・創造的な討議・意見の調整・交渉・説得など）
- 課題発見力…問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う（情報収集・本質理解・原因分析など）
- 計画立案力…問題解決のための効果的な計画を立てる（目標設定・シナリオ構築・計画評価・リスク分析など）
- 実践力…効果的な計画に沿った実践行動をとる（実践行動・調整・検証・改善など）
- 感情制御力…気持ちの揺れをコントロールする（セルフアウェアネス・ストレスコーピング・ストレスマネジメントなど）
- 自信創出力…ポジティブな考え方やモチベーションを維持する（独自性理解・自己効力感・楽観性・機会による自己変革など）
- 行動持続力…主体的に動き、良い行動を習慣づける（学習行動を含む）（主体的行動・完遂・良い行動の習慣化など）

15

コンピテンシー（1年次比較）



16

自校教育論の修得状況



17

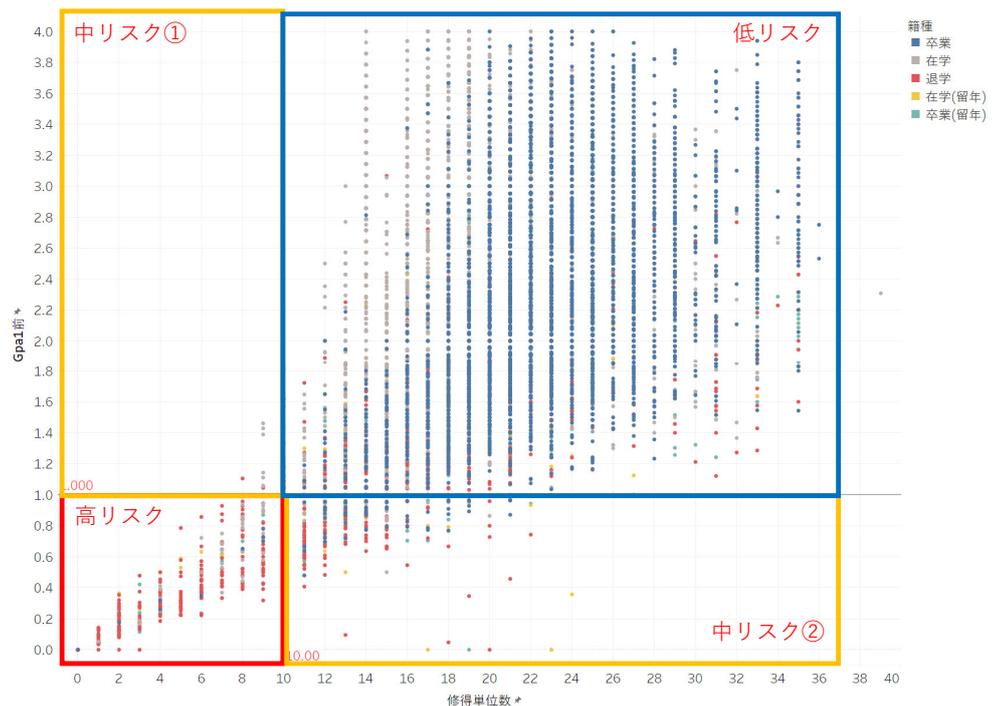
1 年前期修得単位数 × 1 年前期GPA

■ 高リスク :

- 1 年前期GPA1.0以下
- 修得単位数10単位以下

■ 低リスク

- 1 年前期GPA1.0より大
- 修得単位数11単位以上



18

1 年前期修得単位数 × 1 年前期GPA

入学年	低リスク			中リスク①			中リスク②			高リスク		
	卒業	卒業(留年)	退学	卒業	卒業(留年)	退学	卒業	卒業(留年)	退学	卒業	卒業(留年)	退学
2011	810 80.0%	79 7.8%	123 12.2%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	16 28.1%	13 22.8%	28 49.1%	1 2.0%	5 10.0%	44 88.0%
2012	820 84.0%	85 8.7%	71 7.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	11 30.6%	6 16.7%	19 52.8%	6 10.3%	4 6.9%	48 82.8%
2013	895 84.6%	71 6.7%	92 8.7%	1 33.3%	0 0.0%	2 66.7%	13 46.4%	5 17.9%	10 35.7%	4 8.3%	3 6.3%	41 85.4%
2014	874 83.6%	73 7.0%	98 9.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	4 12.5%	8 25.0%	20 62.5%	0 0.0%	2 4.9%	39 95.1%
2015	954 85.9%	67 6.0%	90 8.1%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	10 31.3%	8 25.0%	14 43.8%	3 5.4%	3 5.4%	50 89.3%
2016	909 82.9%	86 7.8%	102 9.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 22.2%	6 16.7%	22 61.1%	0 0.0%	1 5.3%	18 94.7%
2017	893 83.8%	65 6.1%	107 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	4 16.7%	6 25.0%	14 58.3%	0 0.0%	1 3.3%	29 96.7%
2018	929 85.6%	74 6.8%	82 7.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 33.3%	7 29.2%	9 37.5%	0 0.0%	1 4.3%	22 95.7%

19

まとめと課題

1. 休学・留年・退学者について、退学防止の観点から1年前期に得られる教学、アンケート、Progを用いたデータの可視化を行った。
 - ▶全体の傾向として退学率は低下しつつある
 - ✓近年では、おおよそ卒業85%、留年5%、退学10%だが、コロナ禍の影響は今後
 - ▶コロナ禍では、退学は減少したが留年が増加している
 - ✓留年からも退学者が存在することから、最終的な退学率が低下するかは不明
 - ▶退学理由は、近年の傾向として「進路変更」が減少し、「学業不振」が増加
 - ✓退学理由を分析する必要がある
 - ▶Progの結果、留年・退学者のリテラシーは通常と比べやや低い
 - ✓コンピテンシーについて詳細にみると、留年者が高い傾向が見受けられる
 - ▶1年前期GAP10未満、修得単位数10単位以下は90%前後の退学率
2. 退学防止策の策定
 - ▶退学者面談
 - ▶出席データの活用（長期欠席者のチューターへはメール配信制度有）
 - ▶分析の多角化（統計手法の活用等）

20